



日本国際ローンテニスクラブ 会員の皆様へ

会員の皆様には、日頃からICの活動をサポートしていただき、心より御礼申し上げます。  
2005年度の活動をご報告申し上げます。

### 2026年2月 Michael Stich氏 新IC Council President就任

メッセージ: 私は長年、ICドイツのメンバーとして活動してきました。ICの魅力はその歴史だけでなく、フェアプレー、対戦相手への敬意、生涯続く友情、そしてテニスを共に楽しみ続ける喜びという価値観にあります。ICは、プロとしてのキャリアを終えた後も、元選手たちがテニスとつながり続けられる大切なコミュニティです。副会長として関わってきた「ICジャン・ポロトラ・スポーツマンシップ賞」は、人格や謙虚さ、スポーツマンシップを称える賞であり、テニス界の大切な価値を体現するものです。このたびフランク・セッジマンの後任としてICカウンスル会長を務めることを光栄に思います。今後は、より多くの元プロ選手をICに迎え入れ、引退後も試合や交流、チャリティ活動などを通じてテニスと関わり続けられるコミュニティをさらに広げていきたいと考えています。これから各国のICクラブやイベントで多くの皆さまとお会いできることを楽しみにしています。どうぞ気軽に声をかけてください。ICは皆さん一人ひとりのクラブです。

メッセージ原文:

<https://www.ictennis.net/News/a-message-from-our-new-ic-council-president-michael-stich>



2025年の年次総会 (AGM) は、ウィンブルドン選手権期間中の日曜日に、ローハンプトンのナショナル・テニス・センターで開催されました。この会議には、招待された41ICのうち33団体を代表する56名の代表者が出席し、以下が議論されました。ポリビアICの新設承認。活動が停止している2つのIC(ブルガリアとルーマニア)に対し、次回のAGMまでに活動再開が見られない場合、次回総会で資格停止となる可能性があることを通知する決定。財務状況は全体として健全であるものの、準備金の強化や新たな寄付者の紹介が必要です。イベント活動は活発で、今後多くの記念周年イベントが予定されている(詳細は[こちら](#))コミュニケーションの大幅な改善。すべてのICがメンバーにニュースを共有し、ICカウンスルの公式Instagramアカウントはフォロワー1,000人以上に到達。今年のBusiness Returns調査の結果等が共有されました。ICフィランソロピー財団からの報告によると現在15か国で17のプログラムを支援しており、最近新しいグローバル文化交流プログラムを開始(ICPFの活動については[こちら](#))。2024年ICウィークで初開催された車いすテニスイベントの成功をもとに、さらに多くのICに対して、車いす選手やメンバーの参加を取り入れることが呼びかけられました。AGM前日、7月5日(土)にワークショップが開催され、若い元選手との関わりをより深める方法を主なテーマとして議論が行われました。すべてのICに対して、この目標について地域代表や理事会とさらに議論することが求められています。また、現役または元プロ選手のためのメンター候補を各ICから推薦することも提案されました。

- IC 本部ホームページ <https://www.ictennis.net/>
- IC E-Newsletter <https://www.ictennis.net/News>
- IC フライントロフィー <https://www.icphilanthropy.ictennis.net/>



Philanthropy  
Foundation



### IC会員との交流

2025年12月18日には英国ICのメンバーのセブ・ジャクソンと2人のお子さんが日本旅行中に訪れ、東京ローンテニスクラブで日本のICメンバーとプレーを楽しまれました。

### 2026年度 IC Japanの活動

- ・全仏期間中のExecutive Committee への参加
- ・ウィンブルドン期間中のAGMへの参加
- ・10月初旬のUS ICの来日決定
- ・2026年度Rod Laver Junior Challenge Asia / Oceania Regional の日本開催予定





### IC GRAND SLAM REUNION Melbourne (2026年1月19日～23日)

オーストラリアIC が創立75周年を祝い、2026年の全豪オープン期間中にメルボルンで新しいICテニス&ソーシャルイベントを開催しました。年初のグランドスラム期間中に、世界中のICメンバーで元グランドスラム選手が集まる形で、盛大に祝うイベントとなり、日本からは村上(手嶋)智佳子さん、佐藤直子さん、甘露寺圭郁さんが参加されました。第1回「ICグランドスラム・リユニオン」(同窓会)と称し、会場移転前の全豪オープンの歴史的な開催地として知られるKooyong Lawn Tennis Clubに世界中から次の条件を満たすICメンバーが集まりました。『グランドスラム大会の本戦または予選に出場経験のある選手、リユニオン開催時点でICメンバーであること。』対戦形式はホストである ICオーストラリア 対 ICレスト・オブ・ザ・ワールド(世界選抜)のチーム戦。年齢カテゴリーはオープン男子 最大3名女子最大3名、45歳以上(男子 最大3名、女子 最大3名、65歳以上、男子 最大3名、女子 最大3名。試合形式はダブルス・ミックスダブルス、各年齢カテゴリーで6名のチーム編成でした。甘露寺圭郁さんは大会で最もエネルギーだったプレーヤーとして「ケン・ローズウォール賞」を受賞されました。これはICにとって、既存メンバーへの素晴らしい機会提供するだけでなく、グランドスラムに思い出やつながりを持つ新しいハイレベル選手メンバーの勧誘につながるイベントでもありました。イベントプログラムの中には、2日間にわたるKooyongでのダブルス/ミックスダブルス試合、Australian Open観戦の機会、楽しいソーシャルイベント、カクテルイベント、ガラディナーなど沢山のイベントが含まれており、盛大なお祝いの場となりました。



↑写真中央マーガレットコート・ケン・ローズウォール・ロッドレイバー グランドスラム優勝経験者に囲まれて

